

## 経法学部「入学者受入れの方針」

経法学部は、経済学または法学を体系的に修得した上で、身につけた専門性を現代社会のさまざまな課題の現場で発揮し、課題解決のために能動的に貢献できる人材の育成を目標にしています。そのために高等学校等を卒業するまでに学習するすべての教科と科目についての基礎知識を習得しておくことが必要です。

本学部で学ぶために、高等学校等の各教科については以下のことを十分に身につけておいてください。

1. 高等学校等における学習内容の幅広い理解
2. 社会科学諸分野の基礎となる高等学校等での国語、地理、歴史、公民、英語等の学習内容の深い理解
3. 問題解決に際して、冷静で論理立った考察や、事実の観察、データの分析に基づいて思考できる資質
4. 人口減少、高齢化の進展など、地域が直面する具体的な課題について問題意識を抱き、その解決に取り組む強い意欲
5. 現在社会が直面する様々な不確実性、リスク、価値観や意見の違い、紛争、多様性などにひるまず、これらに積極的に立ち向かうチャレンジ精神
6. 幅広い視野を持ち、様々な学問領域で生み出された成果や研究方法を総合的に取り入れながら真理を探究する姿勢

本学部では、上記の素養を持つ学生を選抜するために以下の入学試験を実施します。

### 【一般入試（前期日程及び後期日程）】

一般入試では、1に対しては大学入試センター試験で国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課すとともに、個別学力検査では2と3を重視して、主として専攻する分野に関連する教科を中心に思考力・論述力を重視した個別学力試験を課します。

### 【推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない入試）】

推薦入試では、「口頭試問を含む面接」で本学部教員との対話を通じて1～6の能力を判定するとともに、提出書類の内容を加味して総合的に合否を判定します。

### 【私費外国人留学生入試】

外国人であって、私費により本学への入学を希望する方には、私費外国人留学生入試を行います。私費外国人留学生入試では、日本語での大学教育を受けられる日本語能力と、1と2に相当する素養を身につけているかどうかを判断するために日本留学試験を課すとともに TOEFL あるいは TOEIC の成績提出を求めます。「面接」では 2～6 を中心にし

て、経法学部で専門分野を学ぶために必要な資質を評価します。さらに、提出書類などを加えて総合的に合否を判定します。

### 【第2年次編入学入試】

第2年次編入学入試では、大学初年次に相応する基礎科目を、異なる教育環境で過ごしてきた学生を受け入れることで、在学生への知的刺激が生まれることも期待し、高等専門学校、短期大学、他大学等からの学生を受け入れています。この編入学入試では、1と2に対応して専門分野ごとに課題提出を求めるとともに、3～6を中心にした「面接」を実施し、提出書類を参考にして総合的に合否を判定します。

### 《十分な学習が望まれる教科・科目など》

国語	資料を読み解き、考えを表現するとともに他者との円滑なコミュニケーションを図るために、一定の読書量を通して国語の能力を十分身につけておくことが必要です。
地理歴史 公民	社会科学分野の基礎となる科目であり、十分に学ぶとともに、教科書での学びに限定することなく、新聞・ニュース報道等に積極的に接し、経法学部が対象としている社会の諸問題に関心を持つとともに、これらを探究するために必要な基礎学力を身につけてください。
数学	論理的思考の基礎ともなる科目ですので、基本的な内容とその応用力を身につけてください。特に、応用経済学科では経済現象の数理的解析のために必要です。
理科	経法学部が対象としている社会の諸問題を探究するための基礎科目として学んでおいてください。
英語	国語と同様な意味で、国内にとどまらない活動のために、英語の能力も必要です。